



TITLE:

京大広報 No. 404

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 404. 京大広報 1991, 404: 37-44

ISSUE DATE:

1991-02-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209269>

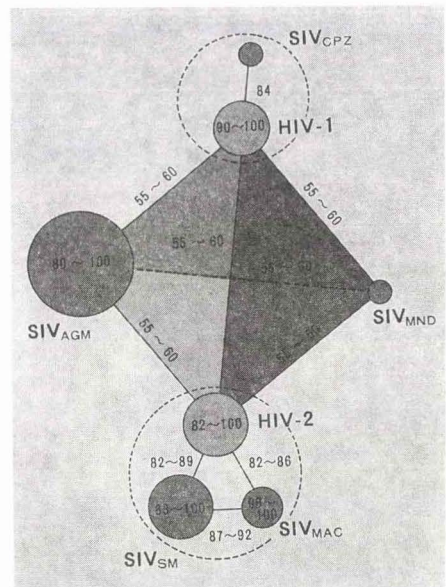
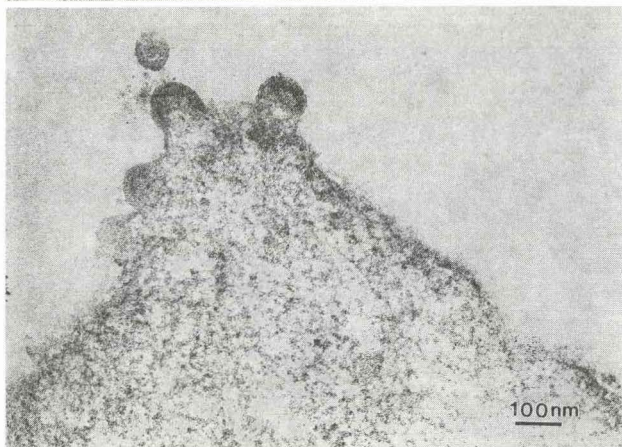
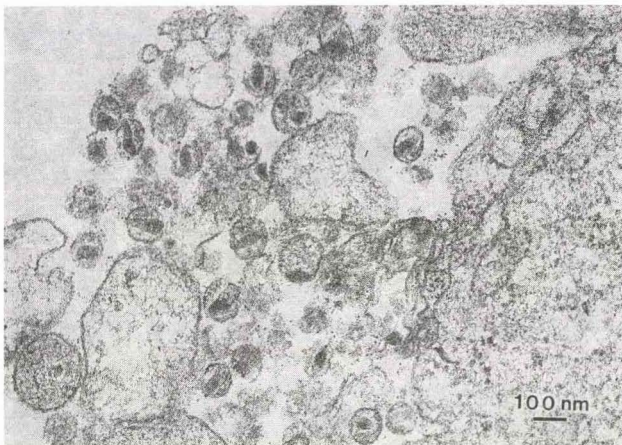
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 404

京都大学広報委員会



左上写真

ヒト免疫不全ウイルスの電子顕微鏡像

説明：濃い棒状もしくは円状の核様体をもった直径約 100 nm の円状のものがウイルス粒子。その他は細胞の一部もしくは破片。

左下写真

細胞表面より出芽により生成途中のサル免疫不全ウイルスの電子顕微鏡像

右写真

霊長類の免疫不全ウイルスの相互関係

説明：40ページに記載

—関連記事本文40ページ—

目次

<大学の動き>

- 平成3年度入学者選抜学力試験
- 第1段階選抜状況.....38
- 平成3年度医療技術短期大学部入学志願者状況.....39

<部局の動き>

- 創立50周年を迎えた胸部疾患研究所.....39

<紹介>

- ウイルス研究所附属免疫不全ウイルス研究施設.....40

<資料>

- 平成2年度教育研究学内特別経費による研究課題.....41
- 日誌.....42

<随想>

- 病氣と怪我と 名誉教授 一松 信.....43

<コラム>

- 実験科学者の停年 農学部教授 瀧本 敦.....44

- 計報.....44

＜大学の動き＞

平成3年度入学者選抜学力試験第1段階選抜状況

平成3年度入学者選抜学力試験の第1段階選抜が行われ、2月8日（金）、志願者に通知された。学部別の受験予定数は次表のとおりである。

また、第2次学力検査は同表に記載の試験場で行われる。最終合格者の発表は、3月9日（土）（前期日程試験）と3月22日（金）（後期日程試験）の正午に各学部ごとに行われる予定である。

学 部	日 程	募 集 人 員	受 験 予 定 数	第2次学力検査試験場
文 学 部	前 期	205	663	教 養 部
	後 期	35	256	文・法・経済学部
教 育 学 部	前 期	50	185	教 養 部
	後 期	20	157	〃
法 学 部	前 期	350	1,109	法・経済学部
	後 期	60	549	〃
経 済 学 部	前 期「一般」	170	548	教 養 部
	〃 「論文」	60	273	〃
	後 期	40	311	法・経済学部
理 学 部	前 期	294	1,213	関西文理学院鞍馬口校
	後 期	32	1,501	教 養 部
医 学 部	前 期	90	377	医 学 部
	後 期	10	210	〃
薬 学 部	前 期	60	180	薬 学 部
	後 期	20	240	〃
工 学 部	前 期	641	2,105	工 学 部
	後 期	419	2,933	〃
農 学 部	前 期	260	732	農 学 部
	後 期	65	651	〃
小 計	前 期	2,180	7,385	
	後 期	701	6,808	
合 計		2,881	14,193	

（注）法学部、経済学部（後期）の受験予定数には、「外国学校出身者のための選考試験」の第1次選考合格者の40名と20名が、それぞれ含まれている。

平成3年度医療技術短期大学部 入学志願者状況

平成3年度医療技術短期大学部入学者選抜試験は、3月4日（月）と5日（火）の両日に実施されるが、入学願書の受付が2月1日（金）から8日（金）まで行われた。

学科別の入学志願者数は、次表のとおりである。

学 科	募集人員	志願者数	倍 率
看護学科	80人	210人	2.6
衛生技術学科	40	322	8.1
理学療法学科	20	132	6.6
作業療法学科	20	99	5.0
計	160	763	4.8

（医療技術短期大学部）

＜部局の動き＞

創立50周年を迎えた胸部疾患研究所

本年で創立50周年を迎えた胸部疾患研究所は、2月2日（土）午後3時から京大会館において、学内外の関係者300余名の出席のもとに、記念講演会・記念式典及び祝賀会を挙行し、併せて『50年の歩み』を記念出版した。

記念講演会では、内藤益一名誉教授より「胸部疾患研究所初期の頃の思い出」と題して講演が行われた。

記念式典は、大島駿作胸部疾患研究所長挨拶のあと、文部省学術国際局研究機関課長佐々木正峰、全国研究所長会議第2部会長（東京大学応用微生物研究所長）水島昭二、京都大学医学部長井村裕夫の3氏より祝辞が述べられ、京都大学総長ほか関係各機関からの祝電が披露された。

式典終了後、祝賀会が催され、前川暢夫名誉教授の発声で乾杯し、同窓会代表より祝辞と思い出話が語られ、終始なごやかなうちに午後7時に閉会した。



本研究所は、結核症の撲滅を目的とする研究機関として、昭和16年3月26日「京都帝国大学結核研究所」の名称で設置された。当時、戦時下において若者の命を奪うという意味から「亡国病」とまで恐れられた結核症を治療することが国民から強く要望されていた。

本研究所は、昭和の激動期に生まれ、昭和の時代とともに成長・発展して今日に至るという運命を担っていたように思われる。結核治療の研究の進歩によって、今日みられるような「結核患者の少ない日本」が生まれるようになった過程で、結核の診断、予防、治療の進歩と専門医師の育成に本研究所が大きな貢献をしたものと思われる。

結核患者が減少するとともに、本研究所における研究内容にも漸く変化がみられるようになり、昭和42年6月1日に名称を「京都大学結核胸部疾患研究所」と改めた。この頃より、研究対象が結核のほかに、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、サルコイドーシス、肺線維症のような呼吸器疾患全般の病因、病態、及び治療の研究が始められた。基礎医学の研究においても、結核菌の研究に加え、マクロファージやリンパ球を中心とした一般の免疫学的研究や組織化学的研究あるいは、老化の機構に関する研究などが行われるようになった。このような研究の流れは、最近になって次第に顕著となったため、昭和63年4月8日に再び名称を「京都大学胸部疾患研究所」と改称し、また、研究組織を旧来の7部門制から4大部門12分野へと改組した。

知命の歳を迎えた本研究所が、次の世紀に向けての第一歩を踏み出す出発点になることを念願している。（胸部疾患研究所）

<紹介>

**ウイルス研究所附属免疫不全
ウイルス研究施設**

当研究施設は現在我が国を含めて地球上に燎原の火の如く拡がりつつあるエイズに対処するため、3年前(1988年)に成人T細胞白血病(ATL)研究のメッカと目される京都大学ウイルス研究所の附属施設として開設された。約10年前に発見されたエイズウイルスはATLウイルスと同じレトロウイルスであることから、世界のATLウイルス研究者の多くがエイズウイルスの研究に参入している。

当施設はATLウイルスの発見者である当時の日沼頼夫ウイルス研究所長の尽力により、全国の大学では最初のエイズ研究専門施設として設立された。現在、当施設と共にウイルス研究所の研究者もエイズ研究に取り組み、緊密な連携活動を行っている。

エイズにはまだワクチン等の感染予防薬はなく、また感染者への発症予防さらに発症者への治療に有効かつ安全な薬剤は開発されていない。これらの開発には現在、全世界の研究者が精力的に取り組んでいるが、「がん制圧」と同様に困難を極め、幾多の基礎研究の積み重ねが必要である。現在、国立予防衛生研究所エイズセンター等の開設により、当研究施設には予防・治療法確立のための直接的な応用研究よりも、それらのペースとなる基礎研究が期待されている。

エイズウイルスはその増殖過程で、自分の遺伝子により作られた酵素により細胞の遺伝子内に潜り込む。そのためウイルスを抗体が認識することができず、生体の免疫反応等の防御機構による排除から免れさせ、このことが治療を困難にしている理由の一つである。また他のウイルスと異なり、自分の構造蛋白質を作る遺伝子の他に、種々の調節遺伝子をもっており、それらが相互に関わりあって自らの増殖へ正負に働く巧妙な自己制御機能を有している。また、このウイルスは他のウイルスと比べ、「変り身」の速さすなわち変異の激しさが知られており、ワクチン開発の一つの障害となっている。

さらにワクチン・治療薬開発の上で大きな障害となっているのは、エイズウイルスはヒトとチンパンジーにしか感染せず、一般の医学研究用に使われる実験動物を用いた動物実験を不可能にして

いる点である。しかし幸いサルがエイズウイルスと類似のウイルス(サル免疫不全ウイルス)をもっており、サルにエイズと同様な病気を起こすことができることが明らかになり、エイズの動物モデルとして、試作されたワクチンや細胞レベルで効果のあった治療薬の治験、及びウイルスの感染様式と発症機序の実験的解明に利用され始めている。

当施設では海外調査を実施し、アフリカ等の種々のサルとヒトから分離した病原性・非病原性ウイルスの遺伝子構造と機能の比較解析を行い、エイズ発症に関与する因子の同定を進めている。さらに、エイズウイルスが人間界に突然出現してきた理由をサルに求める考え方もあり、サル免疫不全ウイルスの研究はエイズウイルスの進化、特に霊長類の進化との関わりを明らかにすることにもつながる。ウイルスの進化・変異の解明は、エイズウイルスの将来の姿を予測することであり、ワクチン開発等へ役立つ。

現在、当施設はこういった問題へ取り組んでいるが、当施設の正規の人員としては病原ウイルス及びエイズ免疫の2領域各教授1、各助教授1の陣容が認められているのみである。幸い当施設開設にあたって振替えの基礎となった、それまでATLの診断・疫学等で活躍した旧ウイルス診断研究施設が、改組後も一般ウイルスの診断業務の傍ら、エイズの診断法の改良、疫学調査等にあたり、WHOのエイズレファレンスセンターとしての機能を含め、国の内外からの要請に答えている。昨年(1990年)には旧小児科跡地に建築された新棟へ、本学遺伝子実験施設等とともに、当施設の1領域が移転し活動を開始している。新棟にはエイズウイルス封じ込めのために、室内の気圧を陰圧にしたP3実験室が完備されており、特殊病原体取扱指針に基づき、厳密に管理された実験が行われている。年々必要性が増すサル感染実験のための十分な施設の早期実現が望まれる。

(ウイルス研究所)

表紙右写真の説明

大別して4群に分けられる。第1群は、ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)とチンパンジー分離サル免疫不全ウイルス(SIV_{CPZ})、第2群はヒト免疫不全ウイルス2型(HIV-2)とスーティマンガベイ(SIV_{SM})、アカゲザル(SIV_{MAC})免疫不全ウイルス、第3群はアフリカミドリザル免疫不全ウイルス(SIV_{AGM})、第4群はマンドリル免疫不全ウイルス(SIV_{MND})。数値は近縁関係を示し、100に近いほど近縁である。

<資料>

平成2年度教育研究学内特別経費による研究課題

本年度の上記経費による研究題目及び代表者が、次表のとおり決定された。

題 目	代表者所属・職・氏名	参 加 者 所 属 部 局
大学教育と生涯学習体系に関する基礎的研究	教育学部 教授・柴野 昌山	教育, 東南, 数研
法学部の4年一貫体制のあり方に関する調査・研究	法学部 教授・中森 喜彦	法
社会・経済システムの長期変動に関する分析方法の開発	経済学部 教授・菊池 光造	経済, 文, 法, 教養, 東南, 人文研
京都大学所蔵資料展示による自然史教育の研究	理学部 教授・日高 敏隆	理, 医, 薬, 工, 農, 教養, アフリカ, 東南, 霊長研
加速器質量分析法による ¹⁴ C年代測定用の試料技術の開発	理学部 教授・小林 晨作	理, 文, 工
国指定天然記念物「深泥池生物群集」の保護に関する総合的研究	理学部 助教授・田端 英雄	理, 農, 教養
長潜時大脳誘発電位を用いた痴呆の客観的評価に関する研究	病院 教授・柴崎 浩	病院, 医, 医短大, 霊長研
麻酔剤に対する細胞の認識応答機構の解明に関する基礎研究	薬学部 教授・中川 照眞	薬, 理
新時代を指向する4年一貫工学教育の在り方に関する調査・研究	工学部 教授・中川 博次	工, 教養
人間と自然の相互関連性の総合的・体系的研究	教養部 教授・有福 孝岳	教養, 文, 法, 理, 農, 人文研, 経済研
学術交流と国際環境	教養部 教授・米山 俊直	教養, 文, 教育, 法, 経済, 東南, 化研, 人文研, 食研, ウイルス研, 数研
高度一般教育についての歴史と展望	教養部 教授・河野 敬雄	教養
大学における放射性同位元素等取扱者の教育訓練に用いる映像資料等教材の研究	放射性同位元素総合センター 教授・栗原 紀夫	放同セ, 理, 医, 薬
視聴覚教材による大学の環境保全教育	環境保全センター センター長・東村 敏延	環境
「地域『間』」研究の視座—その課題と展望を求めて—	アフリカ地域研究センター センター長・田中 二郎	アフリカ, 農, 教養, 東南, 人文研
遺伝子・ゲノム解析の自動化技術を確立するための広範な基礎的データの収集	遺伝子実験施設 施設長・本庶 佑	遺伝子, 医, 理, ウイルス研

題 目	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
新総合科学としての医療工学における教育・研究の在り方とその調査	生体医療工学研究センター センター長・筏 義人	生体研, 医, 工, 化研, 胸部研, 原エネ研
循環器系疾患におけるリハビリテーションの役割とその現状に関する調査研究	医療技術短期大学部 教授・神原 啓文	医短大, 医, 教養
分子運動の視覚化	化学研究所 助教授・林 宗市	化研, 理, 薬
欧米における中国目録学の研究	人文科学研究所 教授・吉川 忠夫	人文研, 文, 教養
水質汚染監視を目的とした重金属バイオセンサー開発のための基礎的研究	胸部疾患研究所 教授・永田 和宏	胸部研, 環境
災害史, 災害技術史の研究体制に関する研究	防災研究所 教授・南井良一郎	防災研, 文, 大型, 人文研
SH基を介した蛋白修飾による細胞の活性化とその異常症に関する総合的研究	ウイルス研究所 教授・淀井 淳司	ウイルス研, 医, 放生研, 胸部研
経済システムの最適化分析	経済研究所 教授・西村 和雄	経済研, 工, 教養
宇宙の大規模構造と重力レンズ効果	基礎物理学研究所 教授・富田 憲二	基礎研, 理
医療用陽子加速装置に必要な性能に関する研究	原子炉実験所 教授・上野 陽里	原子炉, 医, 化研
ヒト・霊長類における視知覚・認知機能の系統発生と発達過程の総合的研究	霊長類研究所 助教授・三上 章允	霊長研, 文, 理, 医, 教養
学内LAN (KUINS) を利用したオンライン図書館情報サービスの改善と伝達システムの開発	附属図書館 館長・西田 龍雄	図書館, 化研(図書室)
運動処方作成のためのデータベースの開発	体育指導センター 助教授・井街 悠	体指セ, 医, 教養
京都大学所蔵先史時代資料の研究	埋蔵文化財研究センター センター長・西川 幸治	埋文研, 文, 法, 人文研, 木研, 原子炉
京都大学における学部教育(4年一貫学部教育の在り方を含む。)の改革等に関する考察	教育研究の高度化に関する調査 研究会 工・教授・中川 博次 法・教授・中森 喜彦	文, 教育, 法, 経済, 理, 医, 薬, 工, 農, 教養, 東南, 化研, 食研, 庶務

日 誌 (1991年1月1日～1月31日)

1月4日 新年名刺交換会	22日 評議会
8日 評議会	23日 フランス共和国 Louis Pasteur 大学 Gilbert Laustriat 学長来学, 学術交流に 関する覚書交換並びに総長及び関係教員と懇談
〃 大学院審議会	24日 放射性同位元素等管理委員会
12日～13日 大学入試センター試験	28日 学位授与式
16日 国際交流委員会	30日 国際交流会館委員会
〃 国際交流会館委員会	

